

二〇二三年を振り返って

今年も残りあとわずかとなりました。皆様にとって、この一年はどのような年だったでしょうか。新型コロナウイルス第八波で明けた二〇二三年は、三年にわたる感染対策で利用者様やご家族には、長くご不自由をおかすこととなりました。五月八日から感染症法上の「二類相当」から「五類感染症」へ移行しましたが、夏場には実質的に第九波と言える状況で、特別養護老人ホームいきいき八田でも八月にクラスターが発生しました。

このような中ではありましたが、職員の奮闘でとりくみをすすめてまいりました。

三月には『法人二〇周年記念誌』を刊行し、ちどり福祉会の歩みを記録として留めることができました。

四月には新卒者三名の職員を迎え入れました。うち二名はネパールとベトナム出身者です。言葉や文化の相違を超えて、介護業務にあたっています。

五月からは第六次長期事業計画の策定の論議を開始しました。今後の法人運営の指針となるものです。

十月は特別養護老人ホームいきいき八田といきいき八田デイサービスが開設二〇周年を迎えました。引き続き地域の高齢者福祉を支える事業所として、健全な運営をすすめます。

来る二〇二四年は三年ごとに実施される介護報酬改定次の年です。利用者様・ご家族様・職員の総力で充実した年としたいと思います。

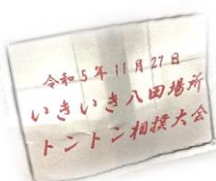
秋まつり開催

小規模多機能ホームのどかでは十一月に秋祭りを開催しました。ゲームやくじ引き等皆さん大盛り上がりでした。



「いきいき八田場所」開幕

大相撲福岡場所の期間に、特養いきいき八田三丁目東ユニットでトントン紙相撲大会が執り行われました。トーナメントによる取組みで、手に汗握る対戦が繰り広げられました。



介護報酬改定をめぐる動き

2024年度は3年に一度の介護報酬改定の年に当たります。現在、国の社会保障審議会介護給付費分科会では、改定に向けた議論が大詰めを迎えようとしています。年末には全体の改定率が示され、年明けて1月の下旬には具体的な報酬の単価が発表される見込みです。

2000年4月に始まった介護保険制度は23年を経て、その性格が大きく変わってきました。「介護の社会化」を謳った保険制度は度重なる報酬のマイナス改定による介護事業者の経営困難、負担の増加と給付の削減による家族負担の増大という問題が発生しています。介護に従事する労働者の賃金も低く抑えられたままです。

11月22日には4年ぶりにJR博多駅前「介護ウェーブ」に取り組みました。ちどり福祉会をはじめ福岡医療団、福岡地域福祉サービス協会、福岡県民医連の職員30名が介護保障制度改善に向けたアピール行動や署名に取り組み、多くの市民に協力をいただきました。

